

第6回総合計画審議会における主な意見

No	指摘箇所		第6回審議会における意見 (: 会長、○ : 委員)	意見への対応状況 (修正しない場合は“現行”に理由を入力)	
				現行	修正案
1	施策3	指標	自己肯定感があったとしても必ずしも目標や夢を持っているとは限らないと思う。夢や目標がなければいけないと言う押し付けのようにも感じてしまう。 他自治体において自己肯定感を持つ子どもの割合を指標としている事例もあると承知しているが、相模原ではできないのか。	成果指標 (新規)	成果指標 <u>自分には良いところがあると思う児童生徒の割合</u> 【説明】 <u>自分には良いところがあると思う児童生徒の割合を測ることで、様々なことに挑戦しようとする意欲の源泉である自己肯定感が育まれているかを見る指標</u>
2	施策6	指標	地区のボランティアの件数が把握が困難であるとあり、それは効率性を考えると当然のことであるが、地区のボランティアセンターを全地区に配置するような施策を展開している中で、センターがあれば、そこで活動があるわけなので、そういう指標の作り方もあるのではないかと。何も1人ずつボランティアを数えるということではなく、センターと言う拠点での整理というものをしたらどうかと思う。	地区ボランティアセンターの設置・運営は、各地区社会福祉協議会を中心に福祉コミュニティ形成事業として取り組まれているものです。福祉コミュニティ形成事業での取組は地区の課題によって様々なものとなっておりますことから、地区ボランティアセンターの設置数を指標とすることは難しいものと考えております。	
3	施策9	指標	成果指標に地域生活の拠点(グループホーム)という言葉があり、地域における拠点的な意味合いもあるのかもしれないが、自立的な生活をしていく“住居”であると認識しており、“地域生活の拠点”とすると少し大きく表現されていると感じる。	成果指標 共同生活援助(グループホーム)の利用人数 【説明】障害のある人の地域生活の <u>拠点</u> となる共同生活援助～	成果指標 共同生活援助(グループホーム)の利用人数 【説明】障害のある人の地域生活の <u>場</u> となる共同生活援助～
4	施策10	取組の方向2	答申素案では、現状と課題に精神疾患と引きこもりなどへの対策を併記している。引きこもりの対策についても、予防的視点を持たないのか。引きこもりについては、地域の見守りや、関わりなど、アウトリーチする予防的な側面が必要だが、それをどうするのか。 引きこもりという文言は施策10だけであるが、ここで予防的な観点を持たないのであれば、例えば、生活困窮者対策などの施策で予防するのか明確にしていきたい。	また、自殺死亡率が減少傾向にあるものの依然として高いことから、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指すとともに、うつ病や依存症等の精神疾患、 <u>ひきこもりなどへの対策として、心の健康づくりを推進することが求められています</u> 」	また、自殺死亡率が減少傾向にあるものの依然として高いことから、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指すとともに、うつ病や依存症等の精神疾患、 <u>ひきこもり状態などによる生きづらさや孤立に対する支援を含めて、市民の心の健康づくりを推進することが求められています</u> 」
5	施策25	現状と課題	商業や農業の施策では後継者や担い手不足について触れられているが、この施策ではそのような記載がなく、主に中規模な企業への支援は見えるが後継者不足に悩む小規模な企業への支援の視点が見えてこない。 中小企業はどこの自治体も高齢化し、担い手がおらずに廃業を迎えている。これに対し、自治体によっては、事業継承に当たっての契約や若手を育てるためにベンチャー型の事業継承制度を投入する、また、例えば京都のように地域企業と言う名前に置き直し、このような形で地元の酒蔵メーカーなどを含めて企業活動を通じて地域貢献をしていくような、かなりローカルな面に注目した取組が増加している。検討していただきたい。	本市は、製造業の集積を図り、内陸工業都市として発展してきましたが、少子高齢化の進行による生産年齢人口の減少、経済のグローバル化に伴う国内外の競争の激化などにより、内陸工業都市としての転換期にあります。	本市は、製造業の集積を図り、内陸工業都市として発展してきましたが、少子高齢化の進行による生産年齢人口の減少 <u>や後継者の不足</u> 、経済のグローバル化に伴う国内外の競争の激化などにより、内陸工業都市としての転換期にあります。
				現状と課題に、「後継者問題」に関する課題を明確化しました。また、取組の方向におけるご指摘の視点は、取組の方向1「地域経済を支える強固な産業基盤の形成」中の「企業の人材確保と育成、定着化を図るための取組」に包括していることから、原案のとおりとさせていただきます。	

No	指摘箇所		第6回審議会における意見 (: 会長、○ : 委員)	意見への対応状況 (修正しない場合は“現行”に理由を入力)	
				現行	修正案
6	施策35	指標	<p>循環型社会の形成を施策の表題とするのであれば、資源循環に関する指標を載せるべきではないか。また、店頭回収の実態を把握していないとのことであるが、店頭回収がこれだけ増えている中で、市としても把握する必要があると感じており、他の自治体では把握している中で、相模原市でできないことはないと思う。また、ごみ質測定調査で傾向を測るのであれば、それを指標にすればよいとも思う。</p> <p>循環型社会の形成をテーマにうたうのであれば、ごみの削減では成り立たないことから、後半にあるような、家庭系の資源ごみに焦点を合わせても良いかもしれないが、市民の努力が循環型社会という面で効果を生み出していますという実感を持たせるような、指標設定が望ましい。</p>	<p>成果指標 (新規)</p>	<p>成果指標 使用済小型家電回収量 【説明】 ごみと資源化可能物を分別し、資源が循環されているかを測る指標</p>
7	重点テーマ4 重点テーマを形づくる施策		<p>商業施設の立地は、人口の誘導や居住地の優劣に影響があることから、商業の振興は、少子化対策を形作る施策の一つといえるのではないか。</p>		<p>意見のとおり、施策27(商業の振興)を対象としました。</p>